

平成29年度NACCS地区協議会資料

私たちは、お客様と共に歩み、
「人・物・国」をつなぐNACCSを通じて、
国際物流の発展に貢献します。

平成29年6月1日

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

目次

• I	事業計画の概要	P 2
	1. 平成28事業年度活動報告	
	2. 平成29事業年度事業計画の概要	
• II	平成28年度の主な取り組み	P 2 2
• III	第6次N A C C S更改について	P 2 7
	1. 第6次N A C C S更改スケジュール等について	
	2. 第6次N A C C S総合運転試験について	
	3. 新N S S（NACCSサポートシステム）のご提供について	
	4. 海上・航空共用化推進の取組み	
	5. 第6次N A C C SにおけるN A C C Sパックの運用について	
• IV	システム稼働状況について	P 3 7
• V	プログラムの変更について	P 4 0
• VI	お客様満足度向上への取組について	P 4 2
• VII	システム参加状況について	P 4 5

I 事業計画の概要

I 事業計画の概要

1 平成28事業年度活動報告

(1) システムの安定的運用とサービス向上

イ システムの安定的運用

- ・ N A C C S は、輸出入申告件数の約99%を電子的に処理しているため、予期せぬシステム障害は輸出入等関連業務の迅速かつ的確な処理を阻害してしまいます。このため、システム障害の予兆となり得る事象・現象の段階で横並び点検を行うなど予防措置を講ずるインシデント管理を実施し、システムの障害発生を未然に防ぐなど、24時間365日、システムの安定的運用に努めました。

⇒ システム稼働率（平成28年）は、N A C C S : 99.99 % 港湾サブ : 100% 貿易管理サブ : 100 %
（いずれも S L A 99.99%）を維持しました。

予防措置を講ずる一環として、サイバーセキュリティ戦略本部において改訂された「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準（平成28年度版）」とのバランスをチェックするため、平成29年3月に総合的な点検を実施しました。

※ SLAとは、Service Level Agreementの略。サービスを提供する事業者が契約者に対し、どの程度の品質を保証するかを明示したものです。

- ・ システム障害や大規模災害等によるシステム停止に対し、システムの迅速な復旧を確保するため、システムベンダー、関係省庁との連携を強化し、システム障害対応訓練等を実施しました。

⇒ 安否確認訓練（9月1日）、非常参集訓練（机上訓練：9月1日～10日、徒歩出社訓練：11月1日～10日）、システム障害対応訓練（12月13日）を実施しました。

障害時のお客様対応訓練を実施しました。（4月、6月、8月、12月）

- ・ システム障害やシステム停止が発生した時には、その状況や対応策等について、速やかにお客様にお知らせするよう努めました。

(1) システムの安定的運用とサービス向上

□ お客様へのサービスの向上

- ・ お客様のニーズを十分把握し、お客様の視点に立ったサービスの提供に努めるため、各種セミナーの拡充や、お客様への情報提供の充実を図りました。

⇒ 各種セミナーを合計96回（川崎本社42回、東海事務所17回、関西事務所26回、九州事務所19回）開催しました。

また、次期（第6次）N A C C S 関連情報の充実、「業務別クイックメニュー」の導入を行うなどN A C C S 掲示板による情報提供の充実に努めました。

- ・ お客様からのお問い合わせに対しては、迅速かつ的確な対応に努め、ヘルプデスクの「お客様満足度調査」を実施し、総合満足度（5段階評価の上位2ランクの合計）を90%以上とすることを目指しました。

⇒ 各事務所が対応しているお客様からのお問合せ業務を本社へ集約するとともに、利用契約手続き業務の効率化を行い、お客様対応への迅速性と品質強化を図りました。

- ・ N A C C S 地区協議会を開催するとともに、国際物流に関連する業界団体様等との情報交換の実施や連携を密にし、より使い易いN A C C S の実現に努めました。

⇒ N A C C S 地区協議会を全国16地区で開催しました。（平成28年4月～6月、出席委員計375名）

また、N A C C S 地区協議会委員宛に「N A C C S 地区協通信」をメール配信（計30回配信）し、N A C C S 関連情報を随時ご提供するとともにご意見等の集約に努めました。

(1) システムの安定的運用とサービス向上

ハ システムの利用促進

- ・ N A C C Sは、民間業務（貨物管理等）を含む輸出入等関連業務を処理する官民共同システムであり、これらの業務に携わるより多くの皆様がシステムを利用することはシステム化の効果を高め、国際物流の効率化と進展につながるとの観点から、関係省庁とも連携をとりつつ、貨物情報に基づくシステム処理を推進するため、国際物流に携わる方々の加入促進に努め、N A C C Sの完全普及に向けた取り組みを進めました。

⇒ 利用促進実績は、川崎本社272件、東海事務所129件、関西事務所64件、九州事務所47件（計512件）となります。

- ・ 港湾における国際物流業務の一層の効率化に寄与することを目的とした「コンテナヤードにおける搬出入業務等サービス」等について、積極的なプロモーション活動を行い、利用拡大を図りました。

⇒ 東京港及び大阪港でC Y搬出入関連業務について、ご利用のお客様に向けた説明会を実施するなど、積極的なプロモーション活動を実施しました。

C Y搬出入関連業務に係るトラフィック件数は、平成28年3月7,227件➡平成29年3月10,959件と増加し、過去最高を更新しました。

(2) 次期NACCSの開発・円滑な導入に向けて

イ 詳細仕様説明会等の実施

- ・ 平成29年10月の稼働を目途として、平成28年3月に確定した詳細仕様に基づき開発を進めるとともに、関係省庁及び民間のお客様のご協力をいただきながら円滑な導入に向けた準備を進めました。
具体的には、平成28年4月から6月にかけて詳細仕様説明会、8月には自社システム利用者向け接続試験説明会、10月から12月にかけて利用申込等説明会等、平成29年1月から2月にかけて関係業界向け業務説明会等を開催しました。

(開催実績)

平成28年	4月～6月	詳細仕様説明会（全国36地区で開催）
	8月	自社システム利用者向け接続試験説明会
	10月～12月	利用申込等説明会（全国31地区で開催）
	12月	損害保険会社向け利用申込説明会
平成29年	1月～2月	関係業界向け業務説明会（海上入出港関連業務、ACL関連業務等）

(2) 次期N A C C Sの開発・円滑な導入に向けて

□ 接続試験の実施

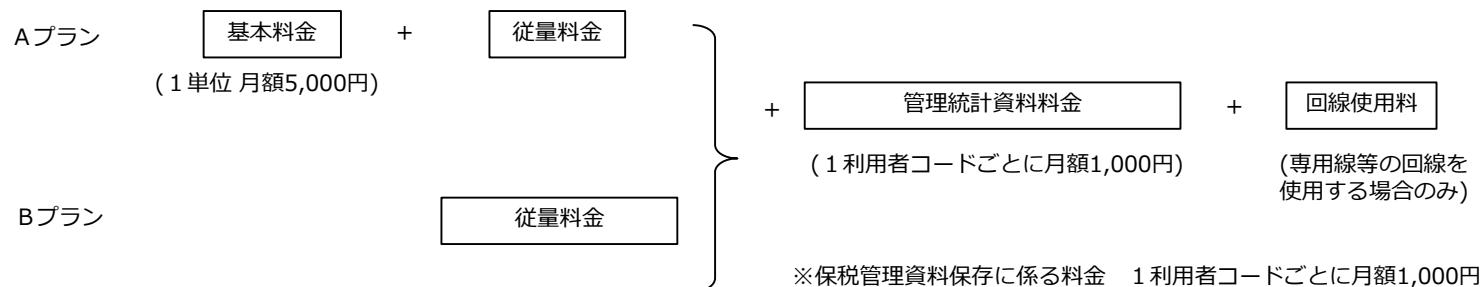
- ・ 次期N A C C Sの更改に併せて自社システムを構築又は改修するお客様の開発を支援するため、平成28年8月に自社システム利用者向け接続試験説明会を開催し、12月より接続試験を実施しました。

ハ 安定的な収益の確保の検討（次期N A C C Sの利用料金について）

- ・ 次期N A C C Sの導入に向けて、システムの安定的な運用等の確保を考慮しつつ、経済性の高いシステムとなるよう、システム経費、今後要すると見込まれる人件費、セキュリティ対策費用などを踏まえて利用料金の見直しを検討した結果、次期N A C C Sの料金体系及び従量料金は現行据え置きとさせていただきました。

（参考）利用料金の概要

○Aプラン又はBプランを選択可能など、料金体系等は現状維持



(3) 新規事業

- イ N A C C Sで処理された情報を活用した情報提供等サービスの開発について、共同開発会社とともに、事業内容等について検討しました。
- ロ 「日本再興戦略」（平成25年6月閣議決定）でうたわれている、通関手続の電子化、民民間貿易取引の電子化の推進の方向性を踏まえ、貿易関連文書の電子保管サービス等について事業化の可能性を検討しました。
- ハ お客様自身のN A C C S業務利用実績を利活用した「業務状況等分析業務」について検討を行い、平成29年3月31日付で財務大臣の認可を取得し、同年4月1日から開始することとしました。
- ニ お客様のN A C C Sの機能等へのご要望のうち、汎用のN A C C Sの機能以外について、お客様のご要望に応じたカスタマイズの実現について検討しました。
- ホ 従来からのN A C C Sの利用に関する説明会の実施に加え、新たにお客様のご要望に応じて、個別にお客様にN A C C Sの操作に関する講習を実施するなどのN A C C Sの利用に関する研修事業について検討しました。

(3) 新規事業

ヘ ミャンマーへのNACCS型貿易関連システムの導入支援に関し、プロジェクトの調達・実施に係る進捗の監理、利用者管理やヘルプデスク等の技術支援を実施し、平成28年11月に当該システムは稼働開始しました。

また、その他のアジア諸国におけるNACCS型貿易関連システムの導入支援について検討しました。

⇒ 無償資金協力の枠組みの下、ミャンマー関税局との間でコンサルティング契約を締結し、ミャンマー関税局のコンサルタントとして、調達関係支援やプロジェクトの進捗監理等を実施しました。
(履行期間：平成26年8月18日～平成28年12月31日)

⇒ 技術協力の枠組みの下、JICAとの間で業務実施契約を締結し、JICA短期専門家として、NACCSのノウハウを活かし、ミャンマー関税局職員に対して「システム利用者管理」及び「ヘルプデスク構築」に係る支援を実施しました。
(履行期間（当初）：平成27年6月5日～平成29年2月10日)

※ JICAからの渡航期間延長の要請を受け、履行期間を平成29年4月28日まで延長しました。

ト NACCS型貿易関連システムの海外における導入に向けたベンダーに対するコンサルティングの実施について検討しました。

I 事業計画の概要

(3) 新規事業

チ 平成29年1月26日、JICAから公示された「カンボジア国ナショナル・シングル・ウィンドウ構築に向けた通関手続き及び通関電子システムの改善提案のための情報収集・確認調査（企画競争・プロポーザル方式）」業務を受注しました。

同年3月8日、JICAと契約（3月8日～7月18日）を締結し、2回にわたり現地派遣を行いました。

（第1回派遣：3月12日～25日 第2回派遣：4月26日～5月5日）

※ シングル・ウィンドウとは、貿易関連手続きに関し、関係する複数のシステムを相互に接続・連携し、1回の入力・送信により複数の類似手続きを同時に行えるようにするものです。アセアン経済共同体（AEC）においては、今後、ASEAN各国で稼働するシングルウィンドウ（ナショナル・シングル・ウィンドウ）の相互連携が実現し、貿易関係手続きの簡素化・効率化による統合を目的とした「ASEANシングル・ウィンドウ（ASW）」を構築する計画が進んでいます。

リ PAA（Pan Asian e-Commerce Alliance）における対話及び出港前報告を電子的に行う体制を整備した際にNACCSと接続した海外のサービスプロバイダーとの連携等を通じた国境を越えた電子情報交換を推進するとともに、海外システムとの連携について検討しました。

※ PAAとは、アジア各国・地域において、貿易・税関関連システムの運用を担う事業体の集まりであり、日本代表の当社を含め、アジア主要国・地域を代表する11社が加盟しています。
PAAでは、アジア域内の手続き電子化・ペーパーレス化を通じた貿易円滑化の推進を目的とした活動を進めています。

（PAA参加実績） 平成28年 4月19～22日：第52回PAA会合（韓国）
平成28年 8月 9～12日：第53回PAA会合（インドネシア）
平成28年12月 6～ 9日：第54回PAA会合（タイ）

ヌ WCO（World Customs Organization）IT Conference等の場を活用し、税関分野におけるIT利用のトレンドについて情報収集を行いました。

※ WCOとは、各国の税関制度の調和・統一及び国際協力の推進により、国際貿易の発展に貢献することを目的として、1952年に設立された国際機関（本部：ブリュッセル（ベルギー））です。現在の事務総局長は御厨邦雄氏。
平成28年7月現在で、180か国・地域がメンバーとなっており、我が国は昭和39年に加入しました。

平成28年6月1～3日開催のWCO IT Conference（セネガル）に参加しました。

I 事業計画の概要

(4) 経営基盤の強化

イ コーポレート・ガバナンスの強化

- ・ 重要な経営判断と業務執行の監督を行う社外取締役2名を含む6名の取締役で構成された取締役会と、取締役会から独立した監査役会、さらには取締役会の諮問機関である第三者委員会の「経営諮問委員会」により経営の適法性・妥当性が確保されている。

コーポレート・ガバナンスの実現に取り組みました。

- ・ 政府保有株式の売却が実施され、民間資本が導入されたことや会社法の改正を踏まえつつ、ガバナンスの強化策を検討・実施し、実効性に優れたコーポレート・ガバナンス体制の維持及び強化に努めました。

ロ コンプライアンスの徹底

- ・ 社員一人ひとりが、法令はもとより社内規程や企業倫理等を遵守するため、全社員参加の会議においてコンプライアンスの重要性について説明を行うとともに、社員研修を実施しコンプライアンスの徹底に努めました。

ハ 経営の効率化の推進

- ・ 業務の効率化を図るため、従来の企画部及びシステム部を廃止し、新たにシステム企画部及び経営戦略企画部を新設し、組織を機能別に再編しました。

ニ リスク管理の強化

① 指定公共機関としての対応

- ・ 災害時に優先復旧が必要なシステムを運営する会社として、災害対策基本法に基づく指定公共機関に指定されていることを踏まえ、万一大規模災害が発生した場合であっても、NACC Sの早期復旧を図れるよう、平成28年9月及び11月に災害対応訓練を実施するなど、万全な対応に努めました。

② リスク管理の徹底

- ・ 当社を取り巻くリスクについて定期的に見直しを行い的確に把握した上で、それらを適切に管理することで、リスク管理の徹底に努めました。

I 事業計画の概要

(4) 経営基盤の強化

ホ 情報セキュリティの強化

- ・ 当社が保有する情報資産について、機密性、完全性、可用性を維持することは、システムの安定的運用と並ぶ当社の最重要課題であるため、定期的にセキュリティ監査や自己点検を実施するとともに、情報セキュリティに関する意識の向上及び知識の習得を図るための研修を実施する等、情報セキュリティの強化に努めました。

ヘ 人材育成

- ・ システムの安定的運用や新規事業の推進のためには、社員の能力を向上させ、これを最大限発揮していくことが必要不可欠なことから、システムの専門知識を有する社員、貿易・物流実務に精通した社員及びグローバルに活躍できる社員を育成するため、新たに海外同業他社への人材交流プログラムの実施等、研修の充実に取り組みました。

ト 継続的な情報公開

- ・ 当社ホームページ等、当社の業務内容に関する積極的な情報公開を行いました。また、提供する情報について、拡充を図りました。

チ 開かれた組織体制の構築

- ・ 社会ニーズの把握に努めるため、情報処理運営協議会、NACCS地区協議会をはじめとしたお客様との定期会合等を一層活用しました。

I 事業計画の概要

(5) 企業の社会的責任（CSR）

- ・ N A C C Sによる電子化を通じたペーパーレス化の推進によるCO₂削減への貢献はもとより、災害対策基本法による指定公共機関としての国や地方自治体との連携強化や、事業所周辺の清掃活動等による地域への貢献活動を実施しました。

(6) 株主還元

- ・ 株主との建設的な対話を通じて、N A C C Sの安定的運用とサービスの向上に努めるとともに、配当を含めた株主の負託にも応えられる企業を目指し、N A C C Sと親和性の高い新規事業等の検討を進めるなど、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に努めました。

I 事業計画の概要

2 平成29事業年度事業計画の概要について

基本方針

1. 当社は、輸出入・港湾関連情報処理システム（NACCS）を通じて、お客様の利便性の向上を図り、国際貿易と国際物流の発展、ひいては我が国の国際競争力強化に寄与することを使命とし、企業理念（下記記載）に基づき、全社員一丸となって、安定的なシステム運営を最優先課題として取り組みます。（注）
2. 次期NACCS（第6次NACCS）への円滑な移行及び「総合物流情報プラットフォーム」の構築に引き続き取り組むとともに、新規事業を実施し収益の拡大による持続的成長を実現するなど経営基盤を強化し、平成28事業年度に引き続き研修の充実を図るなど、人材育成に一層取り組むほか、組織・人材の活性化を図り、中長期的な企業価値の向上に努めます。

（注）当社は、その前身である認可法人として昭和53年から、輸出入及び港湾・空港手続とこれに関連する民間業務を官民の垣根を越えて処理する基幹システムであるNACCSを運営しています。これまでの経験と知識を最大限活かしながら、システム開発能力の向上やグローバル化の推進を図り、国内はもとより海外の物流関係システムとの連携を実施するなど、当社にしかできないNACCSを中心としたイノベーションの実現を目指します。

（企業理念）

私たちは、お客様と共に歩み、「人・物・国」をつなぐNACCSを通じて、国際物流の発展に貢献します。

I 事業計画の概要

(1) システムの安定的運用とサービス向上

- ・ 当社は、今後とも民間業務（貨物管理等）を含む輸出入等関連業務を安定的かつ効率的に提供していくため、引き続きシステムの安定的運用とお客様に対するサービス向上等に努めます。

イ システムの安定的運用

- ・ 引き続き想定しうるリスクへの対応策を事前に講じるなどプロアクティブ・マネジメントを実施し、システムの障害発生を未然に防ぐなど、24時間365日、システムの安定的運用に努め、システム稼働率100%を目指します。
- ・ システム障害や大規模災害等によるシステム停止に対し、システムの迅速な復旧を確保するため、システムベンダー、関係省庁との連携を強化するとともに、平成28年10月8日のシステム障害時の対応についての再点検結果を踏まえシステム障害対応訓練等を実施します。
- ・ システム障害やシステム停止が発生した時には、その状況や対応策等について、速やかにお客様にお知らせするよう努めます。

ロ お客様へのサービスの向上

- ・ 各種セミナーの拡充やお客様への情報提供の充実を図ります。
- ・ ヘルプデスクの「お客様満足度調査」を実施し、総合満足度（5段階評価の上位2ランクの合計）を90%以上とすることを目指します。

ハ システムの利用促進

- ・ 国際物流に携わる方々の加入促進に努め、NACCSの完全普及に向けた取組みを進めます。
- ・ 港湾における国際物流業務の一層の効率化に寄与することを目的とした「コンテナヤードにおける搬出入業務等サービス」等について、引き続き積極的なプロモーション活動を行い、利用拡大を図ります。

(2) 「総合物流情報プラットフォーム」の構築

- ・ 次期N A C C Sの開発・円滑な導入及びシステムの機能向上に継続的に取り組むとともに、最新技術の動向を踏まえつつ、新規事業の推進による周辺サービスの拡大を図ることで、港湾・空港における利便性・信頼性の高い、簡易で効率的な「総合物流情報プラットフォーム」の構築に努めます。
- ・ 平成29年度においては、引き続きN A C C Sの開発や新規事業の導入といったシステムの機能向上、多角的サービスの提供等の取組みを推進します。
- ・ 「総合物流施策大綱(2013-2017)」(平成25年6月閣議決定)でうたわれている、国土交通省のコンテナ物流情報サービス(Colins)機能の反映についても多角的サービスの提供の中で引き続き検討します。
- ・ 次期N A C C Sの稼働に伴い新たに追加する損害保険関連業務等については、関係者様向けに個別説明会を開催する等、円滑な導入及び利用の促進を図ります。

(3) 次期N A C C Sへの円滑な移行に向けて

- ・ 次期N A C C Sについては、平成29年10月の稼働を目途として、関係省庁及び民間のお客様のご協力をいただきながら、「総合物流情報プラットフォーム」の構築を目指すとともに、総合運転試験をはじめとする円滑な移行に向けての準備を進めていきます。

(今後の予定)	平成29年	4月～6月	総合運転試験説明会（全国約40か所で開催）
		7月～10月	総合運転試験
		9月	移行説明会
		10月8日（日）05:00	次期N A C C S稼働予定

(4) 新規事業

- ・ 国際貿易と国際物流の発展、ひいては我が国の国際競争力強化に寄与するため、新規事業に取り組みます。

(主な取組み)

- ・ 情報提供業務の充実

N A C C Sで処理された情報を活用し、当該情報の自動保管や検索機能による取り出し等、お客様の利便性の向上に貢献可能な貿易関連文書の電子保管等サービスの提供について検討し、実施可能なものから事業化します。

- ・ 通関手続の電子化、民民間貿易取引の電子化の推進

次期N A C C Sにおいては、損害保険（包括保険関係）に係る業務を開始します。

- ・ 業務状況等分析業務の提供

目的達成業務として、平成29年3月31日付で財務大臣の認可を取得した業務状況等分析業務について同年4月1日より業務を開始します。

- ・ 情報セキュリティ対策の提供

n e t N A C C Sの利用者を、インターネット経由のセキュリティトラブルに巻き込まれる被害から守るため情報セキュリティサービスの提供について検討し、実施可能なものから事業化します。

(4) 新規事業

- ・ 国際貿易と国際物流の発展、ひいては我が国の国際競争力強化に寄与するため、新規事業に取り組みます。

(主な取組み)

- ・ 諸外国へのN A C C S型貿易関連システムの展開
ベトナムにおけるV N A C C S導入及びミャンマーにおけるM A C C Sの導入実績を活かし、その他地域への展開の可能性について検討します。また、V N A C C S及びM A C C Sに関し、引き続き必要な支援を実施します。
- ・ 海外システムとの連携
P A A (Pan Asian e-Commerce Alliance) における協議、出港前報告を電子的に行う体制を整備した際にN A C C Sと接続した海外のサービス・プロバイダーとの連携等を通じた国境を越えた電子情報交換及び海外システムとの連携を検討します。

(今年度の国際会議等参加予定)

- 平成29年5月：第55回P A A会合 (台湾)
- 6月：W C O I T コンファレンス (ジョージア)
- 11月：第56回P A A会合 (フィリピン)

(5) 経営基盤の強化

- ・ 当社は、社会に信頼される企業を目指し、今後とも良質なサービスを低廉な料金で提供していくために、引き続き実効性に優れたコーポレート・ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底、経営の効率化の推進及び人材の育成に努めるとともに、引き続きリスク管理及び情報セキュリティを強化してまいります。
- ・ お客様、株主をはじめとするステークホルダーの皆様と、広く社会全体に対し説明責任を果たしていくために、継続的な情報公開及び開かれた組織体制の構築にも重点を置き、経営基盤の強化を図ります。

(6) 企業の社会的責任（CSR）

- ・ 当社は、NACCSによる電子化等を通じたペーパーレス化の推進によるCO₂の削減はもとより、災害対策基本法に基づく指定公共機関としての、災害時における国や地方自治体との連携強化や、事務所周辺の清掃活動等による社会に貢献するよう努めます。

(7) 株主還元

- ・ 当社は、株主との建設的な対話を通じて、NACCSの安定的運用とサービスの向上に努めるとともに、さらに、NACCSと親和性の高い新規事業等を実施することで、株主を含むお客様企業の成長を後押ししてまいります。
- ・ また、配当を含めた株主の負託にもお応えできる企業を目指し、持続的な成長を実現し、中長期的な企業価値を高めるように努めます。

Ⅱ 平成28年度の主な取り組み

Ⅱ 平成28年度の主な取り組み

1 ミャンマーにおけるMACCSの状況

(1) MACCSの稼働状況について

- 平成28年11月12日(土) 8時30分、ヤンゴン地区において運用を開始しました。
- MACCSには、民間企業約1800社、税関を含む関係省庁4省庁が参加し、貨物情報を活用した輸出入申告業務、納税、税関による審査、許可を一連の流れで行うことができるようになりました。
- 稼働当初は、システムに不慣れなこともあり、問い合わせも多く、混乱しましたが、今年に入り落ち着いてきました。
- システム上で一部審査終了が未済となっている申告もありますが、その多くは自動車の輸入に関するものであり、その他の貨物については、順調に処理されています。なお、引き続き、導入地区拡大に向け関係者間で調整が図られる予定です。

(2) MACCS稼働式典について

- 平成29年1月6日(金) チャトリウムホテル（ヤンゴン）において、両国政府、関係省庁並びに民間企業等の代表が参加し、MACCS稼働式典が滞りなく執り行われました。



Ⅱ 平成28年度の主な取り組み

2 民間株主を迎えた初めての株主総会の開催

- ・ 平成28年3月末、NACCSセンターの発行済株式総数10,000株のうち、政府保有義務がある過半数を除く4,999株が一般競争入札により売却され、民間資本が導入されました。
- ・ 平成28年6月24日には、民間株主を迎えた初の株主総会を、27者のご出席を得て開催しました。



(参考)

- NACCSセンターの株主構成
発行済株式総数：10,000株
うち政府保有：5,001株
うち民間保有：4,999株(株主数48者)

港湾物流において、効率的かつ正確な業務処理を実現するため、NACCSセンターではC Y 搬出入関連業務のシステム化を通じて、ご利用者様の間で情報共有が可能となるサービスを提案し、積極的なプロモーション活動を行っています。

イ ブッキング情報登録業務

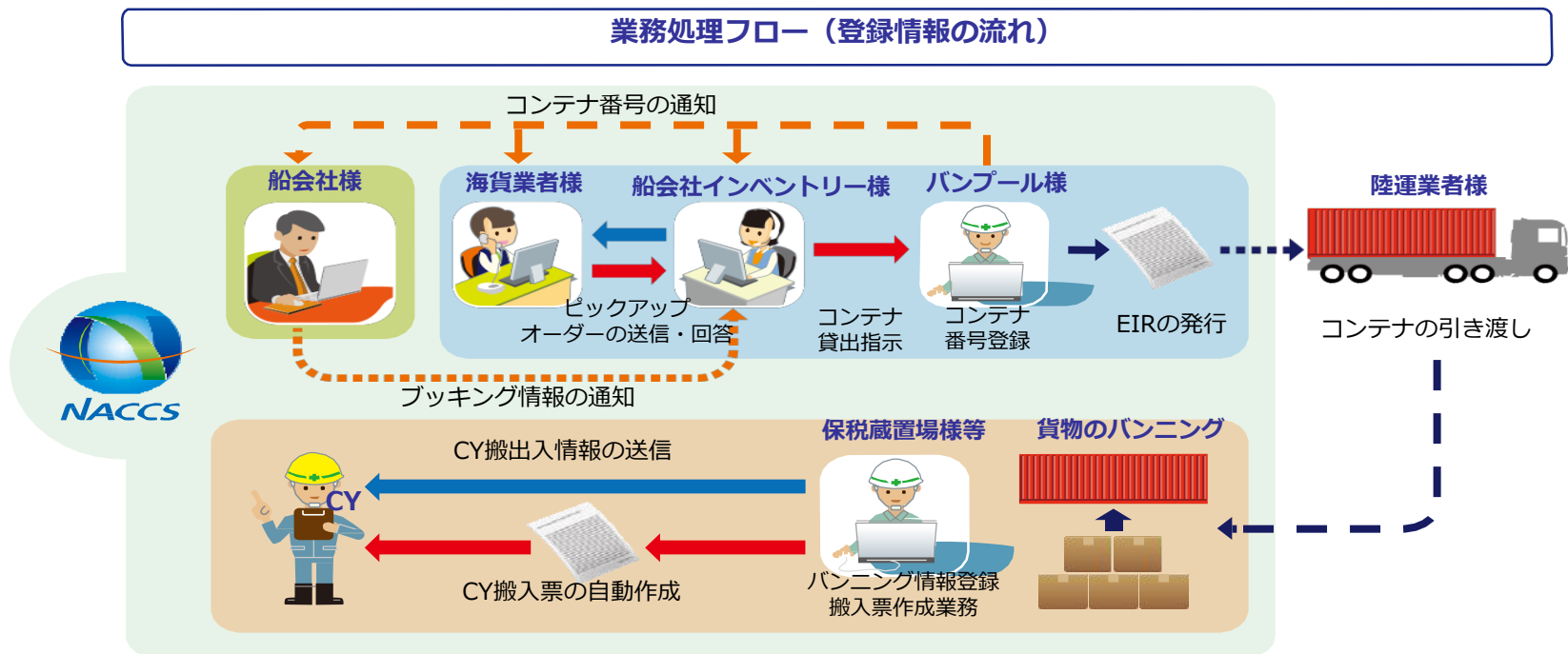
船会社様がブッキング情報をNACCSに登録する業務です。登録されたブッキング情報を使って、共通フォーマットによる作業の共通化・効率化が実現します。

ロ 空コンテナピックアップ業務

輸出用の空コンテナピックアップオーダーを、NACCSの共通フォーマットで行うことができる業務です。

ハ 搬入票作成業務

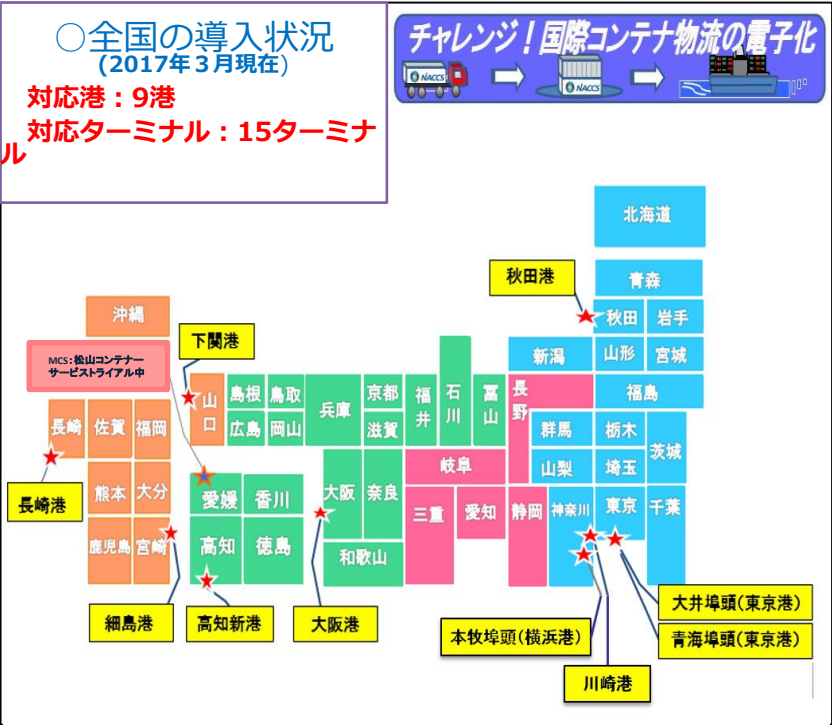
NACCSにコンテナ搬入票の情報を登録する業務で、コンテナ搬入票の作成と併せて搬入先のC Y へコンテナ搬入票を送信することができます。



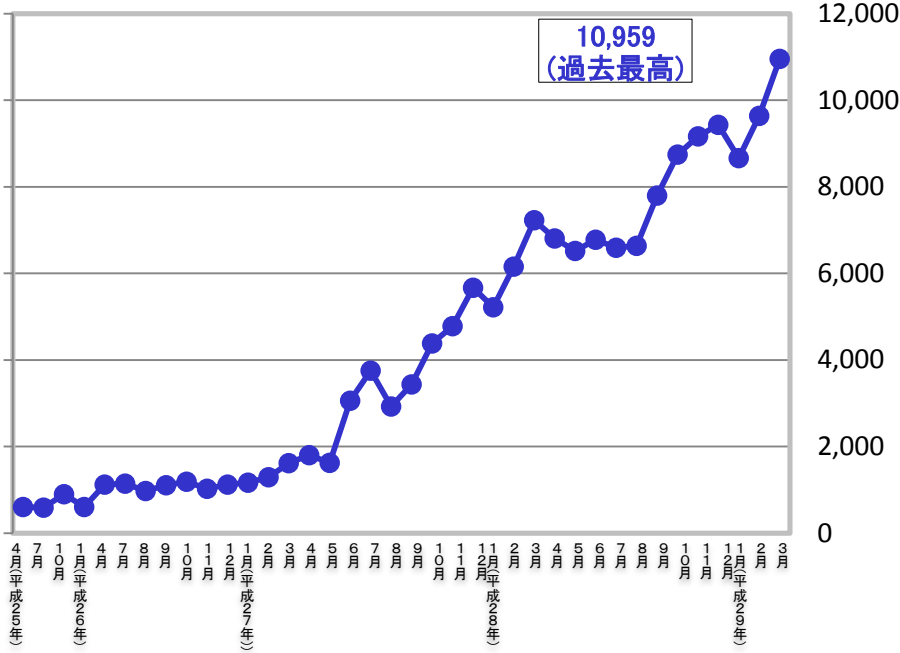
Ⅱ 平成28年度の主な取り組み

平成28年は、9月頃から空コンテナピックアップ業務を中心に利用が広がっております。
第6次NACCS更改のタイミングも念頭に、新しいターミナルオペレーター(CY)様の加入や海貨業者様の更なるご利用を目指しています。

- イ 全国の導入状況
現在、全国で9港、15ターミナルでご利用いただいております。
- 利用状況（トラフィック件数）
平成28年は9月頃よりご利用が伸び始め、平成29年3月に過去最高の10,959トラフィックを記録しています。



CY搬出入関連業務の月間トラフィック数※の推移(※BKR関係は除く)



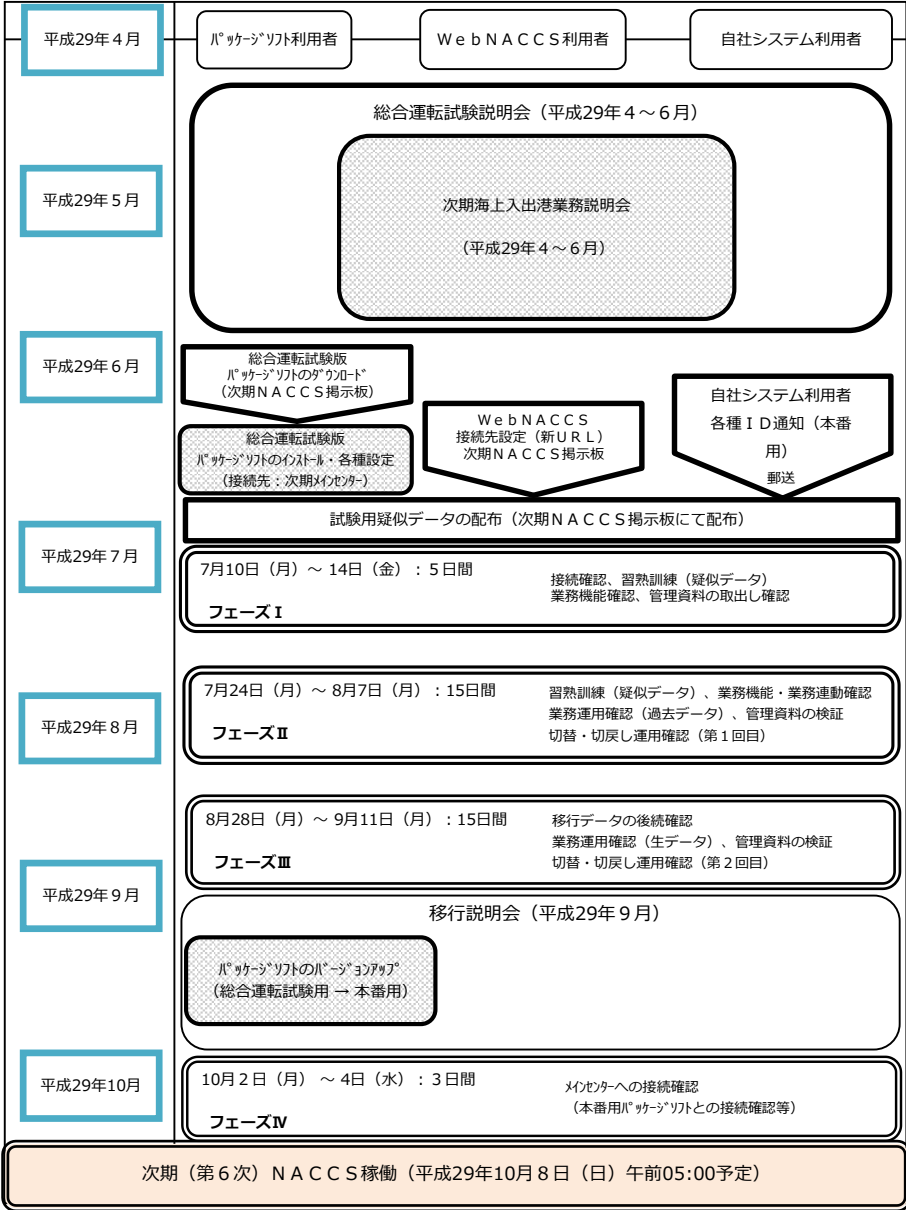
Ⅲ 第6次N A C C S更改について

Ⅲ 第6次NACCS更改について <1. 第6次NACCS更改スケジュール等について ①>

項番	項 目	概 要	備 考
1	システム開発及び導入準備作業	第6次NACCSの開発については、現在、システム構築の最終段階である総合試験に進んでおり、また、更改に向けた準備作業（自社システムとの接続試験、利用申込関係等）も含めて順調に進捗している。第6次NACCS稼働までの今後の主なスケジュールはP31のとおり。 （注）総合試験：システム全体の機能、性能及び操作性等が設計どおりであることを確認する試験	
2	稼働開始（予定）日	現時点における稼働開始（予定）日は以下のとおりであり、最終的には今後実施する総合運転試験等の実施結果を見極めたうえで決定する。 ① 第6次NACCS稼働開始日 平成 29 年 10 月 8 日（日）05：00 ② 現行NACCSから第6次NACCSへのデータ移行処理に伴うNACCS停止時間 平成 29 年 10 月 7 日（土）23：15～10 月 8 日（日）05：00（5時間45分） ③ 港湾サブシステムのNACCS統合処理に伴う港湾サブシステムの停止時間 平成 29 年 10 月 7 日（土）18：00～10 月 8 日（日）05：00	最終決定は総合運転試験フェーズⅢ終了後の9月中旬を予定
3	第6次NACCSのシステム運用時間	第6次NACCSについては、24 時間 365 日のシステム稼働とするが、2 か月に 1 回（1月、3月、5月、7月、9月、11月）、保守点検を目的として該当月の第3日曜日に約2時間半のシステム停止時間を設けることとする。 （注）制度改正や緊急を要するプログラム変更、緊急パッチ適用等が発生した場合は、上記のシステム停止時間を変更する可能性があり得る。	現行NACCSでは、毎月第3日曜日に2時間半のシステム停止時間を設けている。

Ⅲ 第6次NACCS更改について <1. 第6次NACCS更改スケジュール等について ②>

項番	項 目	概 要	備 考															
4	バックアップセンター切替／切戻し時間	第6次NACCSでは、メインセンターで大規模災害や大規模障害等が発生した場合、バックアップセンターへ切り替える時間及び切戻す時間の短縮化を図ることとしているが、現在のところ、切替え、切戻しに要する時間は、以下を想定している。 (現行) 切替時間：NACCSセンターにおいて切替を行うことを決定後、約1時間 切戻し時間：約8時間（約4時間／1日×2日） (第6次NACCS) 切替時間：NACCSセンターにおいて切替を行うことを決定後、約30分 切戻し時間：約1時間	切替／切戻し時間に関しても今後実施する総合運転試験等の実施結果を見極めたうえで最終的に決定する。															
5	総合運転試験	総合運転試験は、第6次NACCSの円滑な稼働開始を図るため、民間利用者システム、関係省庁システム等の業務機能確認及び新規業務等の習熟訓練等を目的として実施する最終的な試験である。同試験は、平成29年7月から10月にかけて、以下のフェーズに分けて実施することとしている。 <table><tr><th>フェーズ</th><th>実施時期</th><th>目 的（概要）</th></tr><tr><td>フェーズⅠ</td><td>29年7月中旬</td><td>全利用者による接続確認及び業務機能確認等</td></tr><tr><td>フェーズⅡ</td><td>7月下旬から8月上旬</td><td>業務機能確認、疑似データ又は過去データの利用による実運用に即した業務運用確認等</td></tr><tr><td>フェーズⅢ</td><td>8月下旬から9月上旬</td><td>本番と同じデータ（生データ）の利用による実運用に即した業務運用確認等</td></tr><tr><td>フェーズⅣ</td><td>10月上旬</td><td>最終接続確認</td></tr></table>	フェーズ	実施時期	目 的（概要）	フェーズⅠ	29年7月中旬	全利用者による接続確認及び業務機能確認等	フェーズⅡ	7月下旬から8月上旬	業務機能確認、疑似データ又は過去データの利用による実運用に即した業務運用確認等	フェーズⅢ	8月下旬から9月上旬	本番と同じデータ（生データ）の利用による実運用に即した業務運用確認等	フェーズⅣ	10月上旬	最終接続確認	総合運転試験は、全利用者の参加を必須として実施
フェーズ	実施時期	目 的（概要）																
フェーズⅠ	29年7月中旬	全利用者による接続確認及び業務機能確認等																
フェーズⅡ	7月下旬から8月上旬	業務機能確認、疑似データ又は過去データの利用による実運用に即した業務運用確認等																
フェーズⅢ	8月下旬から9月上旬	本番と同じデータ（生データ）の利用による実運用に即した業務運用確認等																
フェーズⅣ	10月上旬	最終接続確認																



※ 現時点での予定であり、今後変更となる可能性もございます。

総合運転試験は、第6次NACCSを円滑にご利用いただくための重要な試験ですので、利用者の方は必ずご参加いただくようお願いいたします。

目的

総合運転試験は、第6次NACCSの円滑な稼働開始を図るため、既存業務、第6次NACCSから追加となる新規業務の正常動作の確認や利用者の習熟訓練等を行うことを目的として実施します。

総合運転試験の詳細につきましては、NACCS掲示板の第6次NACCS情報の専用ページをご覧ください。

http://www.naccscenter.com/dai6ji/rt/setsumeikai_shiryou.html

第6次NACCSへのスムーズな移行のため、引き続きご協力の程、よろしくお願いいたします。

業種別フェーズ実施内容一覧

業種	フェーズⅠ 7月10日～14日	フェーズⅡ 7月24日～8月7日	フェーズⅢ 8月28日～9月11日	フェーズⅣ 10月2日～4日
航空会社	必須	必須	必須	必須
航空貨物代理店	・第6次NACCS	・自社の業種内で、	・移行データ及び	・パッケージソフト
通関業	パッケージソフト	疑似データ及び過去	生データによる関係	トのバージョンア
(自社通関含む)	(総合運転試験版)	データによる業務の	会社と、データ連携を	ップ。
機用品業	インストール。	習熟訓練。	しての、業務の習熟訓	・TCC業務による
混載業	・URY業務による		練。	導通確認。
保税蔵置場	パスワード変更。	・税関、関係省庁と	・税関、関係省庁と	
損害保険会社	・TCC業務による	の間の業務の習熟訓	の間の業務の習熟訓	
船会社	導通確認。	練。	練。	
船舶代理店				
CY		※フェーズⅠの内容	※フェーズⅠの内容	※フェーズⅠの内
NVOCC		の実施は可能。	の実施は可能。	容の実施は可能。
海貨業				
ハンプール				
輸出入者(S/I、I/V、許可書取得等)				
汎用申請(船陸交通許可申請等)		不要	不要	
輸出入者(貿易管理サブシステム)		※フェーズⅠの内容	※フェーズⅠの内容	
		の実施は可能。	の実施は可能。	

総合運転試験実施要領から抜粋

新N S Sのサービス開始は、第6次N A C C S稼働開始にあわせて平成29年10月8日（日）08：00を予定していますが、総合運転試験の準備、第6次N A C C S向けの契約内容の確認等を行っていただくため、平成29年6月26日（月）10：00から暫定稼働します。

1. 暫定稼働期間

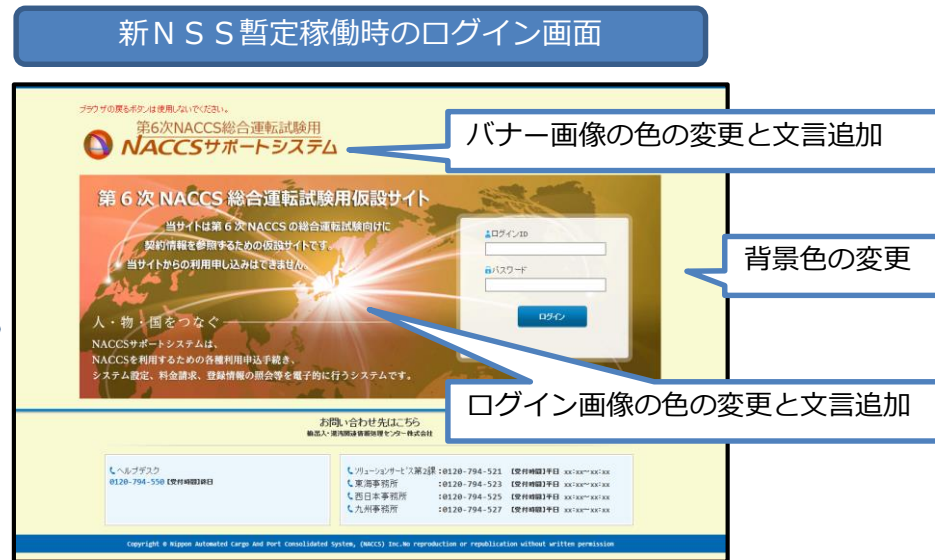
平成29年6月26日（月）10：00から平成29年10月4日（水）19：00まで（予定）

※10月4日（水）19：00から10月8日（日）08：00の正式稼働までは停止いたします。

なお、暫定稼働期間中において緊急メンテナンスを行う可能性がありますのでご了承ください。

2. 暫定稼働期間中の画面表示

新N S Sの画面デザインは現行N S Sと基本的に同じで青色基調の画面ですが、暫定稼働期間中は現行のN S Sと容易に判別できるよう、オレンジ色基調に変更し、ロゴ等のデザインも一部変更します。



3. 暫定稼働期間中に行っていただきたいこと

書面にて申し込んだ内容が正しく反映されていることの確認をお願いいたします。また、変更申込を行われていない場合も、現行と同様の契約内容となっていることの確認をお願いいたします。

(1) 「海上・航空共用」手続きのお願い

第6次NACCSでは、航空物流において、一貫したシステム処理を実現するため、海上機能で航空貨物を取り扱う機能を廃止して、海上貨物は海上システムで、航空貨物は航空システムで処理することとなります。航空貨物を取り扱う場合には、利用契約のシステム区分を「海上」から「共用」に変更するなど、「海上・航空共用」の手続きが必要となります。

航空システムをご利用いただくための「海上・航空共用」の手続きは、現行（第5次）NACCSからも実施出来ますので、システム更改前に航空システムの業務に慣れていただくためにも、手続きのお済みでない保税蔵置場、通関業者の皆様におかれましては、「海上・航空共用」の手続きを進めていただきますよう、よろしくお願い致します。

(2) 第6次NACCSへの移行データの取扱いについて

海上・航空共用化を行った海上・航空共用蔵置場につきましては、第6次NACCSへのデータ移行前に航空貨物を航空システムで処理していれば、移行データの取扱いについて特段の対応をすることなく後続業務が実施可能となる予定です。また、移行データに海上システムで処理された航空貨物のデータが含まれており、輸入申告前又は輸出申告前の場合は、当該移行データについて改めて航空システムで再処理すれば、NACCSで後続業務を実施することができる予定としています。

(3) 関連資料について

これまでの説明会やお電話等で多く寄せられたご質問と海上・航空共用化の移行期等における留意事項等を、以下の専用ページに掲載していますので、この機会に是非ご確認ください。

海上・航空共用化についての詳細情報につきましては、NACCS掲示板の第6次NACCS情報の専用ページをご覧ください。

<http://www.naccscenter.com/dai6ji/kaikuuindex.html>

当該専用ページには、更新情報の掲載を継続していく予定です。

第6次NACCSへのスムーズな移行のため、引き続きご協力の程、よろしくお願い致します。

（1）NACCSパックとは

NACCSパックとは、輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社（以下「センター」という。）が提供するパソコン用パッケージソフトを、ベンダーがパソコンにインストールし周辺機器（プリンター等）と組み合わせたものを、センターが動作確認等の検証を行ったものです。

（2）現在ご利用中のNACCSパック、NACCSプリンタパックの第6次NACCSにおける運用について

現行NACCSにおいては、NACCSパック、NACCSプリンタパックとして各ベンダーが販売するパソコン、プリンタに対し、センターが動作環境の検証を実施し、検証合格通知書を交付しています。第6次NACCSにおいても引き続きNACCSパックの運用を継続することといたしました。

（3）第6次NACCSで引き続きNACCSパック等をご利用いただく場合の検証の実施等について

第6次NACCSにおいて引き続きNACCSパック、NACCSプリンタパックの取扱いを継続するための検証実施の申込みを行ったベンダーは、センターの定める確認項目について自ら動作確認を行います。センターは、ベンダーの実施する動作確認の結果をもって、検証合格の判断を行うことといたします。

（4）第6次NACCSで引き続きNACCSパック等の運用を継続する対象の「機器（ベンダー、機器名）」等について

お客様がご利用中のNACCSパック、NACCSプリンタパックが第6次NACCSにおいて運用継続の対象機器か否かについては、まず提供ベンダーに直接ご確認を行ってください。なお、現行NACCSの運用終了をもってNACCSパック等から対象除外となる機器については、以下のNACCS掲示板情報でご確認ください。

- ・ NACCSパック : <http://www.naccscenter.com/use/naccspack/>
- ・ NACCSプリンタパック <http://www.naccscenter.com/use/prINTER/>

(5) 総合運転試験におけるお客様（NACCSパックユーザー様）のご対応等

- ・ 必ず総合運転試験に参加していただくこと。
- ・ 次期パッケージソフトの総合運転試験版から本番稼働版へのバージョンアップが正常に行われたことをもって最終的な検証合格の判断を行う。

(6) お客様（NACCSパックユーザー様）にご協力等をお願いしたいこと

- ・ 一部の検証対象機器について、総合運転試験期間中にNACCSパックベンダーによる動作確認作業を行うこととしていること。
- ・ 次期パッケージソフトの総合運転試験版から本番稼働版へのバージョンアップが正常に行われた結果について、ベンダーの確認作業へのご協力（※パッケージソフトを起動し総合運転試験版から本番稼働版へのバージョンアップを行ってください。本番稼働版は、メニューバーの色が灰色に変更されていること、オプション設定の接続先が「総合運転試験環境」から「本番環境」に変更されていることを確認してください。）。

(7) 問合せ先

ご利用中のNACCSパック等のベンダーの連絡先については、以下のNACCS掲示板に掲載していますので、こちらからご確認いただくようお願いいたします。

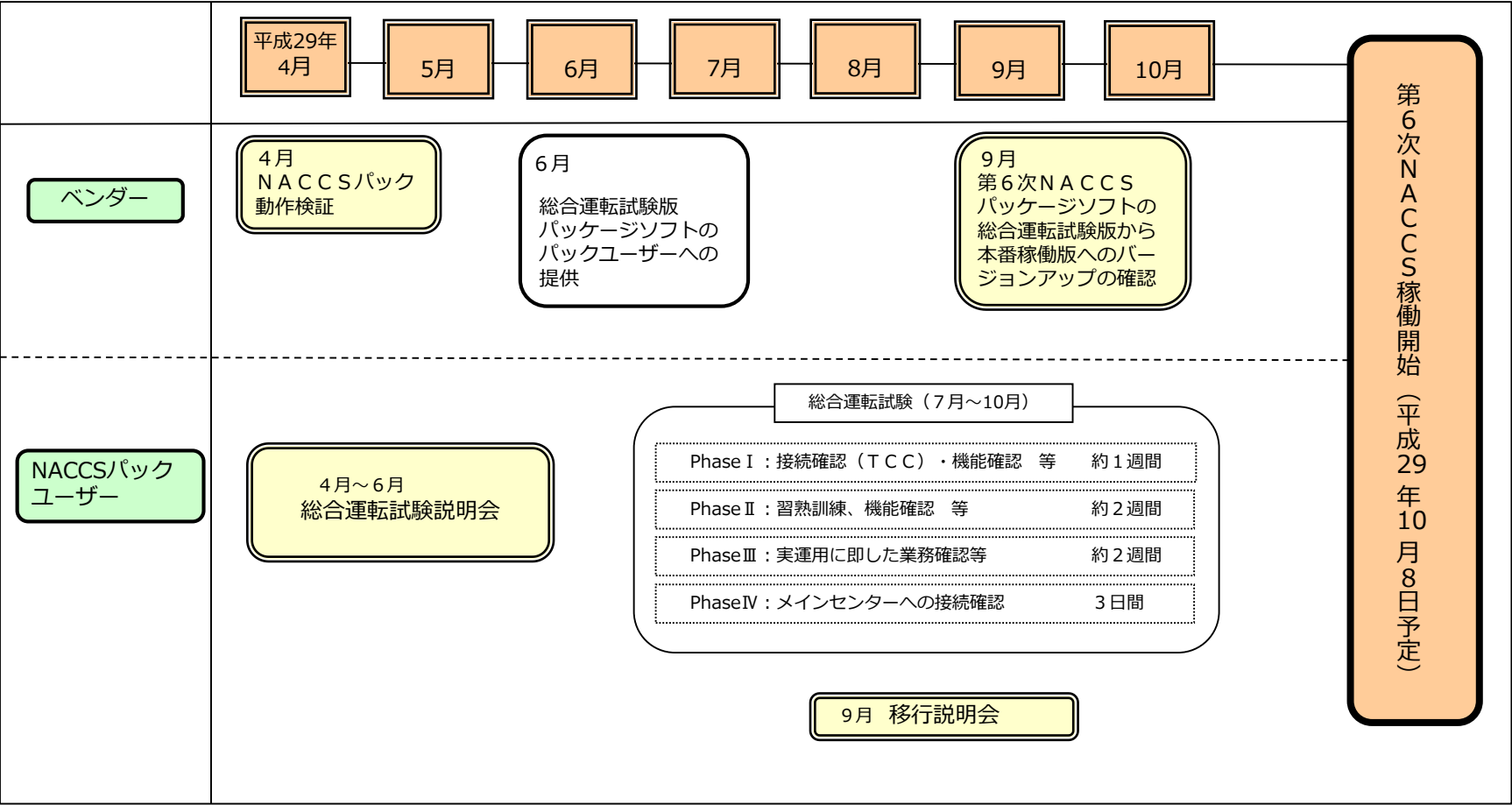
- ・ NACCSパック：<http://www.naccscenter.com/use/naccspack/>
- ・ NACCSプリンタパック<http://www.naccscenter.com/use/printer/>

その他、NACCSパックに関する全般的なお問合せ先は、以下のとおりです。

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社 ソリューション事業推進部 お客様サポート課

T E L : 044-520-6280 F A X : 044-522-6284（ 運営時間：平日09：00～18：00 ）

【NACCSパックスケジュール（概要）】



Ⅳ システム稼働状況について

Ⅳ システム稼働状況について

システムの安定的運用を最重要課題として取り組んでいます。

システム障害発生を検知から復旧、復旧後の対応に至る一連の対応を遅滞なく確実に実行し、国際物流に関わる関係者への影響を最大限抑制するよう努めています。また、安定運用の日（12月10日）を定め訓練を実施しています。

NACCS稼働状況【平成28年1～12月】

1. 稼働状況

規定運用時間	計画停止時間	運用時間	障害停止時間	稼働率
8,784時間00分	30時間00分	8,754時間00分	0時間18分	99.99%

- （注1）規定運用時間
1日のシステム運用時間（24時間00分）の平成28年1～12月における総時間
- （注2）計画停止時間
NACCSセンターが、サーバのメンテナンス等のため予め利用者に周知して全オンライン業務を停止した時間
- （注3）運用時間
規定運用時間から計画停止時間を控除した時間
- （注4）稼働率
$$\left(\text{運用時間} - \text{障害停止時間} \right) \div \text{運用時間}$$

障害停止時間：障害により全オンライン業務が停止した時間

Ⅳ システム稼働状況について

2. 障害状況

項目	当年件数	前年件数
システム関係	1	0
回線関係	1	0
障害内容 (1) システム関係 10月8日(土)8時55分から11時45分にかけて、一部のハードディスク故障により、N A C C S業務の一部に障害が発生した。 故障ディスクの交換及び再起動（全オンライン業務停止時間：18分）により正常稼働に回復。 (2) 回線関係 12月8日(木)2時00分頃～7時00分頃にかけて、n e t－N A C C S及びN A C C S掲示板への接続ができない状況となった。		

3. トラフィック件数

	航空	(前年比)	海上	(前年比)	合計	(前年比)
輸出関係業務	124,900	(105.0%)	39,238	(98.6%)	164,138	(103.4%)
輸入関係業務	136,414	(108.6%)	65,919	(99.8%)	202,334	(105.6%)
監視・輸出入共通関係業務	11,512	(93.8%)	65,862	(105.4%)	77,375	(103.5%)
小計	272,827	(106.3%)	171,021	(101.6%)	443,848	(104.4%)
関係省庁業務 (輸入食品監視支援、動物検疫・植物検疫業務など)					50,519	(106.0%)
その他 (「端末開通確認（TCC）」業務など)					39,470	(106.5%)
総計					533,838	(104.7%)

V プログラムの変更について

V プログラムの変更について

1. 平成29年度プログラム変更について

現時点において、平成29年度中にプログラム変更を予定している案件はありません。

なお、法改正や緊急を要する案件（例えば、運用上の不都合解消）が発生した場合には、緊急プログラム変更を実施し、その結果を次回運営協議会で御報告致します。

2. 平成28年度プログラム変更実施項目

平成28年度中にプログラム変更を実施した案件は、緊急プログラム変更5件（うちN A C C Sに係るもの2件、貿易管理サブシステムに係るもの3件）となっております。

【N A C C S】 緊急プログラム変更実施項目一覧

No	事項	リリース時期
1	輸出証明書等発給申請業務のシステム化	2017年3月19日
2	輸入食品監視支援業務の変更 2件	2017年3月19日

【貿易管理サブシステム】

No	事項	リリース時期
1	申請項目の追加	2016年7月17日
2	輸出許可等に使用される別表第一のリスト改正	2017年1月7日
3	メッセージ登録機能の変更 ほか2件	2017年3月12日

VI お客様満足度向上への取組について

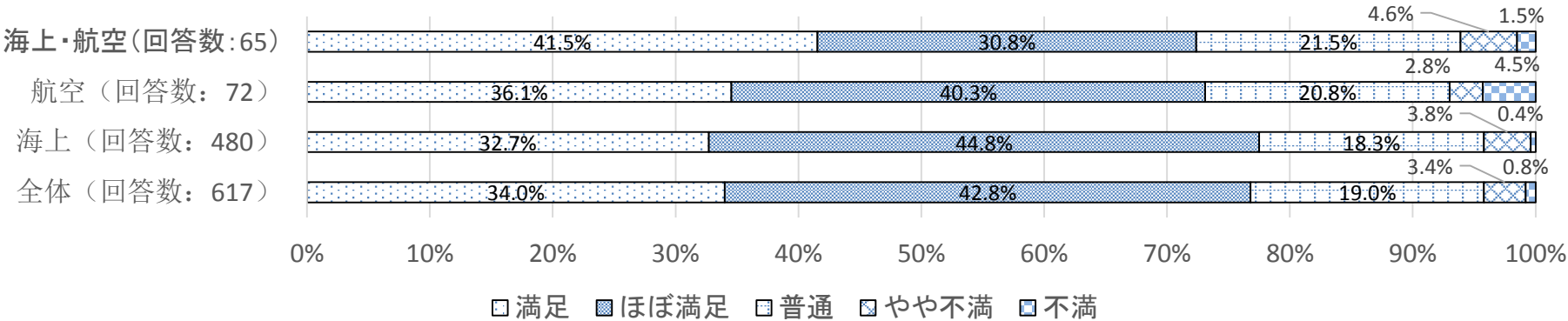
Ⅵ お客様満足度向上への取組について

ヘルプデスク顧客満足度調査結果(平成28年9月～10月実施)

1. 総合満足度

インターネット上のアンケート調査でご回答いただいたお客様から、約34%の「満足」、約42.8%の「ほぼ満足」の評価をいただき、総合満足度は合計76.8%となりました（前年比△1.6%）。

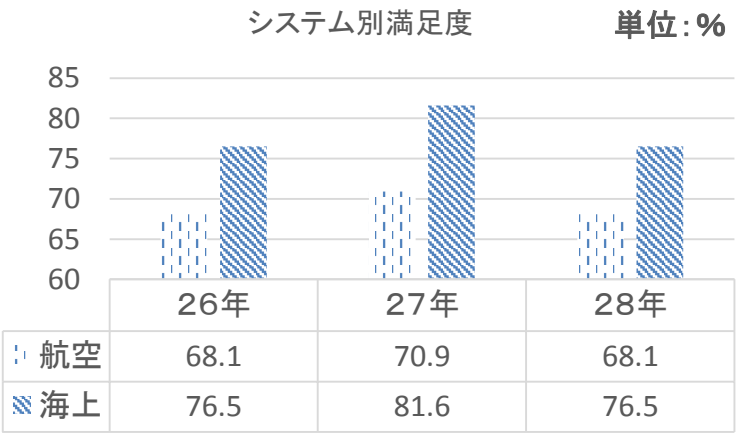
一方、約4%の方から「やや不満」・「不満」との評価をいただきました（前年比+1.2%）。



2. お客様のご意見やお褒めのお言葉（抜粋）

- ・ 対応が丁寧・親切である（前回123件⇒今回165件）
- ・ 担当者によってスキルや回答にばらつきがある
（前回10件⇒今回19件）

・ お客様のご意見に基づく改善策（業務別クイックメニューやメールによる問合せ拡充など）に関するご意見を伺ったところ、概ね高評価を頂きました。



VI お客様満足度向上への取組について

3.改善への取組み状況について

ヘルプデスクでは、回答時間の短縮への継続的な取り組みや、業種別の「理解度」「正確さ」「分かり易さ」に着目した研修の実施など、「お客様の声」に基づいた施策を行うことで、総合満足度の更なる向上を目指しています。

【満足度向上施策】

- 受付オペレータの知識・技量向上
- 掲示板・FAQ等お客様への提供情報の更なる充実

4. お客様の求める品質：「早く、正しく、親切に」をめざして！

引続き「お客様の声」を募り、より多くのお客様から、「ありがとう。たすかりました。」とお言葉をいただけるよう、サービスの向上に努めてまいります。

お気づきの点がございましたら、お客様サポート課までお知らせください。

本年も第6次NACCS更改後に満足度調査を実施する予定です。
皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

Ⅶ システム参加状況について

VII システム参加状況について

1. システム契約者数【航空】

	社 数			事業所数		
	平成29年 3月末	増減 (対28.3末)	平成28年 3月末	平成29年 3月末	増減 (対28.3末)	平成28年 3月末
航空会社	121	10	111	400	30	370
航空貨物代理店	166	5	161	600	10	590
保税蔵置場	257	69	188	599	179	420
混 載	209	4	205	630	15	615
通 関	702	140	562	1,164	257	907
機用品	19	△1	20	32	0	32
銀 行	21	△2	23	24	△2	26
輸出入者	1,932	325	1,607	2,030	373	1,657
汎用申請者	912	36	876	1,182	44	1,138
合 計	3,756 (4,339)	514 (586)	3,242 (3,753)	5,331 (6,661)	791 (906)	4,540 (5,755)
対28年3月末比	115.9% (115.6%)			117.4% (115.7%)		

(注) 1. 【海・空共用】の事業所については、システム契約者数【海上】及びシステム契約者数【航空】の両者に加算している。

2. 下段()書きは、業種単純合計を記載している。

VII システム参加状況について

2. システム契約者数【海上】

	社 数			事業所数		
	平成29年 3月末	増減 (対28.3末)	平成28年 3月末	平成29年 3月末	増減 (対28.3末)	平成28年 3月末
船 会 社	214	10	204	302	10	292
船舶代理店	939	18	921	1,674	27	1,647
C Y	423	0	423	1,093	11	1,082
保税蔵置場	1,520	0	1,520	3,487	34	3,453
NVOCC	313	15	298	531	22	509
通 関	1,452	96	1,356	2,475	118	2,357
海 貨	426	18	408	942	43	899
銀 行	34	△7	41	37	△7	44
輸出入者	2,029	325	1,704	2,139	338	1,801
汎用申請者	912	36	876	1,182	44	1,138
バンプール	1	△1	2	3	△1	4
合 計	6,081 (8,263)	456 (510)	5,625 (7,753)	10,225 (13,865)	575 (639)	9,650 (13,226)
対28年3月末比	108.1% (106.6%)			106.0% (104.8%)		

(注) 1. 【海・空共用】の事業所については、システム契約者数【海上】及びシステム契約者数【航空】の両者に加算している。
2. 下段()書きは、業種単純合計を記載している。